

かつて携わった建造物（番外編） 「ホテル…お・も・て・な・し」

ホテルの語源は「ホスピス (hospice)」で、「旅人・客」などを意味します。同じ語源の言葉に「ホスピタリティ」があり、その意味は「おもてなし・思いやり」です。日本のホテル建設ブームは、オリンピックや万博などの国際的なイベントやバブルの到来に合わせて訪れました。そして、バブルが崩壊した後は、地価の下落に伴って多くの外資系のホテルが開業しました。

ホテルニューグランド(開業：1927年)

場所：神奈川県横浜市中区山下町



山下公園の中央口付近に位置する日本を代表するクラシカルホテルです。部材は、かつて芝浦にあった工場で製作し、舁で東京港から横浜港へ運び、山下橋のあたりから現場までは線路を敷設して運びました。

新大阪ホテル(開業：1935年)

場所：大阪府大阪市北区中之島



昭和初期につくられた関西を代表する歴史ある迎賓館ホテルです。建設時は地上8階建てで、その後に30階建ての新館などが増設されています。なお、1997年にホテル名を“リーガロイヤルホテル”改称しました。

杉ノ井ホテル(開業：1944年)

場所：大分県別府市大字南立石



杉乃井ホテルは、別府八湯の一つ観海寺温泉にある大型リゾートホテル。当社は、1966年に開業した13階建ての新館（現Hana館）の鉄骨工事に携わりました。

帝国ホテル(開業：1970年)

場所：東京都千代田区内幸町



1970年の大阪万博の開催に合わせて開業した本館の鉄骨工事に当社は携わりました。

なお、1983年に竣工したインペリアルタワー（現帝国ホテルタワー）の建設にも携わっています。

京王プラザホテル(開業：1971年)

場所：東京都新宿区西新宿



1971年、淀橋浄水場の跡地に建てられたホテルです。

本館の高さは178mで、新宿の超高層ビル群の先駆的な存在です。開業後の3年間は、日本で最も高い超高層ビルでした。

山ノ上ホテル(開業：1954年)

場所：東京都千代田区神田駿河台



当社は1979年の本館の改修工事に携わりました。

出版社が密集する神田に近いということもあり、昔から作家の“缶詰”の場所として使われていることでも知られています。

東京ベイヒルトンインターナショナル(開業：1988年)

場所：千葉県浦安市舞浜



東京ディズニーリゾートのオフィシャルホテルの一つで、リゾート内にあるため両パークへの移動が便利です。現在は、“ヒルトン東京ベイ”というホテル名になっています。

京都ホテル(開業：1895年)

場所：京都府京都市中京区河原町通



京都で最も高いホテル（地上17階・地下4階・高さ60m）です。2002年にホテル名を“京都ホテルオークラ”に改称しています。敷地内に桂小五郎の銅像があるのは、長州藩邸跡に建てられたからです。

東京ドームホテル(開業：2000年)

場所：東京都文京区後楽



都内最大級のエンタテインメントエリア“東京ドームシティ”の一角にそびえる地上43階・地下3階・高さ155mのシティホテルです。丹下健三氏の晩年の作品の一つとしても有名な建物です。

ここに挙げた以外にも、ヒルトン東京、群馬ロイヤルホテル、奈良ロイヤルホテル、第一ホテル東京など、多くのホテルに関わっています。また、すでに閉館しましたが、箱根ホテル小湧園、東京ヒルトンホテル、新橋第一ホテル新館、ホテルパシフィック東京、椿山荘国際ホール、沖縄都ホテルなどの鉄骨工事も当社は携わっています。

【作成裏話】

社員および鋼和会の皆様に配布しております社内報の裏ページに、コラム『かつて携わった建造物』を連載するようになって、早いもので5年ほどが経ちました。

このコラムは、「東京2020オリンピック」に絡めた内容のものを開催期間中の7月末に発行予定の社内報に掲載したら面白いのではと思って書き始めたものです。

しかし、新型コロナウイルス感染症の世界中での感染拡大の影響を受け、オリンピックの開催が延期となったのは皆様ご承知のとおりで、私の目論見は外れてしまいました。

オリンピックの開催に合わせて開業すべく多くのホテルが建設されたわけですが、今となっては空しい限りです。

いろいろと問題のあった国立競技場やその他の施設は、建設費がかさみながらも工期中に完成にこぎつけたわけですが、「こんなことなら、十分に休みながらでも造れたのに」と考えてしまいます。

社内報7月号自体も、新型コロナウイルス蔓延の影響で工場や現場の仕事に支障が出たり従業員が在宅になったりしたため、原稿が集まらないという理由で発行中止となりました。

このコラムは既に作成していたので、「番外編」として、ここに掲載する次第です。(S.T)